



— 私を去って他を利する政治を —

令和2年秋号東京版

去私利他

【衆議院議員山本幸三季刊誌】

【発行】山本幸三事務所 〒100-8982
千代田区永田町2-1-2 衆議院第二議員会館915号
TEL (03) 3508-7085 FAX (03) 3501-9303
mail yamamoto-office@seagreen.ocn.ne.jp
H P http://www.yamamotokozo.com

自民党 Lib Dems
Liberal Democratic Party of JAPAN

【討議資料】
2020年(令和二年)10月発行



(↑官房長官時代、金融・観光・行革・地方創生等、党から政策提言・要望に行った数は数え切れません。)



国民のために働く。

8月末、安倍晋三内閣総理大臣が突然辞任を表明されました。野党時代より安倍さんと共にアベノミクスを作り上げた私としてはとても残念な出来事でした。十分な療養と早期の回復を心より祈っております。

さて、菅義偉新内閣が発足しました。最優先課題として新型コロナウイルス対策を示し、前政権の取組みの継承・推進と、更にデジタル庁や行政、規制改革をにかけて猛烈なスタートを切っています。

私と菅総理は同じ8回当選組。「仕事師内閣」の名の通りその実行力を表す逸話は数多く、例えば私が行革担当大臣時代に組み込んだ統計改革。政府統計に不適切な事業が相次ぐ中で、私の問題意識を申し入れたところ、すぐに菅官房長官(当時)を議長とする統計改革推進会議を立ち上げ、一緒に統計システムの抜本的な改革に取り組みで頂きました(左写真下)。更には、観光立国政策で、私が党観光立国調査会長として進めてきたインバウンドの強化。政権交代直後から、党と一体になってビザの緩和や免税制度の拡充や、財源確保のための国際観光旅客税の導入などを行い6年かけてインバウンドは八百万人から三千二百万人への到達。発足からの高支持率はこれまでの成果を見た、期待の表れでしょう。

そして、就任会見では、目指す社会像として「自助・共助・公助」そして「絆」と提示されました。この自助について野党からは色々な批判がされておりますが、菅総理のこの考え方は立派な国家観ではないかと思っております。

菅義偉新内閣発足に 山本幸三は

実は私は、この「自助」を地方創生担当大臣の時から強く強調してきました。その原点になっているのが、サミュエル・スマイルズが書いた『自助論』という本で、激動の明治維新の時に、中村正直という学者が渡英して見出し、訳して出版したもの。「他人に頼らず自身の奮闘努力でしか道は拓けない」との教えが、「明日をどう生きるべきか」悩んでいた多くの日本人の人生の道標となり、当時三千万人程度の人口の中、ほぼ一家に一冊はあったという程のベストセラーになったとのこと。豊田佐吉や大倉喜八郎などの経済人もこの本に共感、感銘を受けたといいいます。他人に頼る前に、まず自分の奮闘努力を重ねていくことの大切さ、その事が明治維新を成功させ、今日の日本を築くことになりました。自助の精神こそが、強い国家・国民を育てると私は思っています。

さて、10月26日から、臨時国会が始まりました。私は、引き続き予算委員会と災害対策特別委員会の委員を、党務においては金融調査会長、税調副会長などをつとめます。今後とも変わらぬご支援を宜しくお願い致します。

(自助論は事務所に飾られています↓)



(菅新総裁ポスターも堂々登場! ↓)



事務所からのお願い☆☆

- ◆山本幸三後援会へのご入会
「福岡10区(門司区・小倉北区・南区)にお住まいの方をご紹介下さい。各種ご案内や報告誌を郵送させていただきます。」
- ◆自由民主党員の拡大
「自由民主党にご入党くださる方を募集しています。(年会費4000円、同住所のご家族は一人2000円)」
- ◆ポスター・看板の掲示
「場所をご紹介ください。スタッフが取り付けに伺います。」
- ◆集会・勉強会・講演会の開催
「少人数から、WEB会議でも参加させていただきます。」
- ◆朝礼や地域行事、趣味等でお集まりの場でご挨拶
「数分でも構いませんので、お誘い頂けると幸いです。」

YouTubeも!



最新情報は
こちらをチェック!

山本幸三公式SNSページ

Twitter:@yamamotogiin Facebook:yamamotokozogiin

7月
豪雨

衆災害対策特別委員長として被災地へ



(今回の豪雨災害で球磨川に架かる10橋が流失。その被害の大きさが分かります。)

8月7日には衆議院災害対策特別委員長として、豪雨災害の被災地の一つ熊本県球磨村、人吉市へ被災・復旧状況の視察へ。文化財を所有する阿蘇神社や旅館ホテル、避難所を始めとする被災地域を訪問し、現況や要望を伺い意見交換を行いました。帰京後は、早速党の会議で共有し、政府へ要望したところ、「被災家の半、全壊認定について、通常の基準よりも広く柔軟な認定」「被災企業の施設、生産機械などの設備復旧費用を最大3億円補助する、なりわい再

建補助金(新・グループ補助金の確立)など迅速に应运え頂きました。さて今国会では、災害で家屋が損壊し被害を受けた世帯に支給する、「被災者生活再建支援金」を拡充する法案の審議が控えています。丁寧な審議と早期の成立に努めるとともに、改めて長年の課題である、災害義援金の差押禁止の恒久法制定にも取り組んでまいります。最後に今回の派遣に際し様々ご調整頂いた皆様に心より御礼申し上げます。

金融調査会長の任期も満了した。早速、金融庁と日銀の縦割り打破を盛り込んだ提言を河野太郎行革担当大臣へ申し入れ(写真下)。改革を「政権のど真ん中」に置くべく内閣を党からも積極的に後押しします。更に、昨年からの取り組みで、中央銀行発行のデジタル通貨構想は、日銀の実証実験の準備段階まで進んでいる。他、国際金融都市の実現に向けて税制など様々な整備とされる金融市場のさらなる拡大に、「私設取引市場の育成」(PTS)の育成を今期の山本調査会の中核テーマとして取り組んでまいります。



金融調査会長 留任へ



本年3月に衆議院より議員在職25周年の表彰を受けました(写真右)。表彰者は肖像画を国会内に掲示できるため、作成を地元の名画家、増田信敏さんへ依頼。この度、3ヶ月の制作期間を経て事務所へ完成品が届きました。実物を見た方からは、「山本が二人」などとても好評です。これから国会見学をご希望の方は、内致します。

永年在職表彰 肖像画完成!



緊急(不定期)連載!

～北九州～
私の推し!



じんだ煮

北九州の名物を紹介する新連載。初回は私の「おふくろの味」である「じんだ煮」を紹介いたします。「じんだ煮」とは、イワシやサバ、カツオなどの青魚をぬか味噌にさんしょう等を加えて煮たもので、青魚の臭いが出ず、独特のコクが出る食べ物です。私は小さい頃から青魚の臭いをしていました。が、この「じんだ煮」だけは例外でした。

戦後すぐの頃は、この家にもぬか床があつて、母親が毎日これをかき回して腐らせないようにするというのが日課でした。各家のぬか床には、それぞれ個性があつて、同じ「じんだ煮」でも微妙に味が違うのです。その後、東京に出たり、福岡に赴任したりして驚いたのは、そうした地域ではこの「じんだ煮」を全く見かけないこと! どうもこの「じんだ煮」は、北九州から日豊線沿いに中津に至るまでの旧小笠原藩に重なる地域だけの独特の料理らしいのです。昔は、保存食だったという話を聞いたことがありますが、私が政治家を志して地元に戻った30年くらい前の頃には、もはや毎日の手入れが必要でぬか床を維持している家庭はほとんど無くなり、市場で買うのがやつとという状況でした。そうした中で、「じんだ煮」を出してくれ、ある料理屋を見つけ、大喜びでした。しかも、そのぬかの味がおふくろの漬けた味とそっくりで、またまたビックリ。人間幾つになっても「おふくろの味」だけは決して忘れないものだと思つて感ぜさせられた次第です。